モニタリングシート

施設名	東由木地区公園

視点		評価項目		6月 所管課評価	6月 所管課コメント	6月 指定管理者自己評価(コメント)	9月 所管課評価	9月 所管課コメント	9月 指定管理者自己評価(コメント)	12月 所管課評価	12月 所管課コメント	12月 指定管理者自己評価(コメント)	期末 所管課評価	期末 所管課コメント	期末 指定管理者自己評価(コメント)
施設の管理・運営を安定して行うことができるか	定量的	**維持管理が適切に行われているか（維持管理事業　実績／計画）【事業報告書】※9・12月のみ**					B			B					
	定性的	団体の経営方針が明確であり、適正な経理がされていること	管理業務実施に係る固有の銀行口座を開設しているか【銀行口座】※6月のみ	B											
			資金の適正管理と経理内容の明確化が図られているか【独立した会計帳簿】	B			B			B					
			利用料金、使用料の徴収は適正に行われているか【独立した会計帳簿・使用料等収納（徴収）事務委託契約書・銀行口座】	B			B			B					
		収支計画が適正であること	収支計画が適正に執行されているか【事業計画書・事業報告書】※9・12月のみ				B			B					
		管理運営が適正にできる職員体制や研修体制がとれていること	業務の実施に適切な人員配置や育成がなされているか【実地調査】※9・12月のみ				A	・上級救命講習を受講することで、緊急時の応急手当や通報の仕方など、実践に転び付く知識を深めた。 ・公園の安全管理に対する意識を高めた。	・全職員を対象に消防庁による上級救命講習を実施し、AED実技に加えて傷病者管理や外傷の応急手当を学んだ。 ・特に119番通報の順序や止血、固定法は緑地作業時の怪我や来園者の緊急対応に非常に有効と考えられる。 ・講習中は職員から多くの質問が挙がる等、現場に直結した問題として捉え、実践に繋がる学びができた。	A	小学校などの教育機関との連携に向けて、環境教育に関する技術や意識の向上に積極的に取り組んだ。	近隣小学校等の対応が増えているため、職員向けに環境教育・体験学習に関する特別研修を実施した。環境教育の基礎を学び、各種ワークショップを通じてインタープリテーション技術の向上と意識共有を図った。			
			給与の支出が適切に行われているか【給与規程・賃金台帳】	B			B			B					
		施設の管理運営を安定して行う能力があること	業務の一括委託が行われていないか【第三者委託協議承諾書・実地調査・会計帳簿】	B			B			B					
		施設の管理が適切に行われていること	各施設の管理は適切に行われているか【実地調査・事業報告書】	B			B			B					
施設の運営に公共性、公平性、公正性が図られているか	定量的	**開園率　（実績／計画）【事業報告書】※9・12月のみ**					B			B					
	定性的	利用者が公平に施設を利用できるよう、配慮されていること	開園日数、開園時間は守られていたか【事業報告書】※9・12月のみ				B			B					
			減免申請された場合、適正に処理されているか【減免申請書】	B			B			B					
			文書の管理・保存が適切に行われているか【ファイル基準表等・実地調査】	B			B			B					
		施設の公共性、公平性について継続性が保たれていること	修繕等、施設保全が適切に行われているか【実地調査・事業報告書】※9・12月のみ				B			B					
			備品の管理が適切に行われているか【備品台帳・実地調査】	B											
施設のサービス向上、利用者の増加等が図られているか	定量的	**利用者満足度調査における統一項目（3項目）の評価（各0～3の評価点）が水準を満たしているか 項目ごとの平均評価を合算し、0以上3以下までは0、3を超えて6未満は1、7以上はA【満足度調査報告書】※実施後のみ**								A	公園内のデッキの交換や掲名板等の更新を自発的に実施するなど、満足度向上につながる維持管理を行った。	各項目で高い評価をいただき、特に自然環境保全や公園施設の清掃状況について、多くの好意的な意見が寄せられた。 公園・緑地の特性に応じた適切な管理、動植物の保全、こまめな巡回清掃といった取り組みが評価につながったものと考えられる。 今後も適切な維持管理に努めるとともに、洋式トイレや温水洗浄便座の増設など、利用者ニーズに応じた環境整備を進め、市民の皆様の満足度向上を図っていきたい。			
	定性的	利用者からの苦情処理の体制がとれていること	利用者等からの相談及び苦情に適切に対応しているか【実地調査・事業報告書】※9・12月のみ				B			A	受け付けた要望に対して真摯にかつ迅速に対応し、対応結果や経過をこまめに市に報告した。	・過去に要望があった箇所の管理改善、自主点検による苦情発生の未然防止によって、要望苦情の発生が最小限となるように努力した。 ・要望の内容により、必要に応じて公園課と情報共有や相談を行いながら、適切に対応し早期解決を図った。			
		各種団体等と協働及び支援をしていること	町会・自治会、アドプト登録団体、教育機関等と連携した事業を行い、支援しているか【事業計画書・事業報告書】※9・12月のみ				A	・近隣の多種多様な団体との連携し、職場体験やインターンシップを実施した。 ・小学校教員との交流会では、授業に取り入れたい体験内容や公園でできる内容など具体的に議論を交わし、今後の連携につながる会となった。 ・近隣団体との連携を活かし、地域に根差した新しい形での里山の活用と保全の取組などが、都市型OECMの事例として取り上げられた。	・大学7校、中学校2校、小学校5校、保育園3園、延べ1033名に対し、公園での体験学習、職場体験・インターンシップを実施した。 ・また、近隣小学校の教員18名との公園視察と交流会も行い、今後の連携について協議した。 ・8月には自薦で行われたOECMs国際シンポジウムに招待され、OECM(自然共生サイト)に登録されている長池公園の事例発表を行った。	A	・小学生向けに連続的に体験授業からまとめ学習まで行うことで、生態系や環境保全の取組を細やかに伝えることができた。 ・自治会や地域団体と積極的に連携し、イベント開催などを行った。	・近隣自治会のシニアクラブの公園案内やふれあい・いきいきサロンの開催支援、地域団体との共催イベントなど多岐にわたる協働を行った。 ・新たに、近隣小学校の4年生が公園の保全活動に参加する授業を継続的に行った(全3回)。 1,2回目は公園の保全作業の体験として池清掃と生物調査、外来草本の抜き取りを行った。 3回目は公園の取り組みについて調べ学習をし新聞にまとめ、発表会を行った。 完成した壁新聞を長池公園自然館で展示している。 ・子供たちや地域の方々が公園での活動に関わり、地域みんなで公園を守り育てる体制を充実させていきたい。			
		広報活動を行い効果的に情報を発信していること	ホームページや広報紙等を通じて、利用情報や注意等を発信し、利用者増加やマナー向上が図られているか【事業計画書・事業報告書】※9・12月のみ				A	・案内版等のデザインや情報を自主的に更新し、利用者への分かりやすい情報提供に努めた。 ・各種媒体を通じて、公園の取組を発信した。	・長池公園の総合案内板ほか複数の園内掲示について、利用者ニーズの変化に合わせた内容とデザインへと刷新を図った。 ・また、『ニューベーシック観光学 自然観光の科学(朝倉書店)』等の専門書や、『ランドスケープデザイン No.162(マルモ出版)』等の雑誌をはじめ、各種紙面媒体に長池公園の取組が掲載された。	A	・OECM(自然共生サイト)間での交流を積極的に取り、活動のPRや今後の連携につながる情報交換を行った。 ・公園の掲示等を利用者に伝わりやすく分かりやすい表現やデザインに更新し、利用者増やマナー向上に注力した。	・11月にOECM(自然共生サイト)間交流会を企画し、長池公園で実施した。東京都神奈川エリアで環境省「OECM(自然共生サイト)」に認定されたまたは申請を検討する)企業・団体・行政等に長池公園の取組を紹介し情報交換を行い、活動のPR や連携体制の強化を図った。 ・長池公園の芝生広場および自然館前の老朽化したサインの更新にともない、公園利用者のニーズの変化に合わせた新しいデザインへと仕様のアップデートを行った。			
施設の効率的な管理・運営、経費節減が図られているか	定量的	**公共料金の節減　（実績／計画）【事業報告書】**													
事業の達成目標が明確で、具体的な事業計画に基づいて行われているか	定量的	**自主事業実施率　（実績／計画）【事業報告書】※9・12月のみ**					A	・計画を大きく上回る実施となった。 ・利用者のニーズを捉えたイベントを新規で企画、開催した。 ・公園の魅力発信につながる事業を実施した。	・4～6月は、計画6件のところ16件実施し、167%の実施率であった。 ・主催事業のうち新規事業である「昆虫観察会」(5/25、6/22開催)は、テレビ出演などで活躍中の昆虫写真家を講師として迎え、多くの参加者を集める人気イベントとなった。 ・また、共催事業の「CRAFT PARK Vol.7」では、初の試みとして長池公園で活躍するパークキッズレンジャーが案内サポート役となるワークショップを開催し、公園の魅力を発信する場を新たに創出した。	A	・計画を大きく上回る実施となった。 ・新たな講師を迎えての継続的なイベントや、公園を活かす季節に沿ったワークショップを開催するなど、公園の利活用や魅力向上につながる事業を数多く実施した。	・7～9月(第2四半期)は14件の自主事業を実施し、200%の実施率であった。 ・主催事業では、第1四半期から引き続きテレビ出演などで活躍する昆虫写真家を講師に迎え「昆虫観察会(9/29)」を開催し、多くの参加者を集める人気イベントとなった。 ・「ヒンヤリ！色付きの氷でお絵かきをしよう！(8/11)」や「愉快なハロウィーンボードをつくろう」(9/15)など、趣向を凝らした子ども向けワークショップも開催し、幅広い世代に公園の魅力を発信する機会を継続的に創出した。			
	定性的	資源の有効活用など環境に配慮した管理運営がされていること	「八王子市役所エコアクションプラン」及び「八王子市役所環境マネジメントシステム」に基づく、環境に配慮した管理・運営が行われているか【ヒアリング等・事業報告書】												
個人情報保護管理及び危機管理が図られているか	定量的	**苦情の real 実施率　（実績／計画）【事業報告書】※9・12月のみ**					B			B					
	定性的	個人情報の取り扱いが適切であること	個人情報の適切な管理のため必要な措置が講じられているか【実地調査】	B			B			B					
		緊急（防火・防犯等）対応等危機管理体制が取られていること	指定管理者が加入しなければならない保険に加入しているか【保険証券】※6月のみ	B											
			事故や災害発生時の緊急時の対応が適正に行われたか。また、適正に行えるよう体制が整っているか。【マニュアル・事業計画書・事業報告書】※9・12月のみ				B			B					

期末総合評価	
所管課コメント	